

除菌効果試験結果

試験片の生菌数測定結果

試験菌	測定	試験液	生菌数(試験片当たり)	
			測定-1	測定-2
大腸菌 (一般)	試験液噴霧前※	—	1.4×10^6	1.0×10^6
	試験液噴霧後15秒間放置	検体	<10	<10
	試験液噴霧後 5分間放置	検体	<10	<10
		対照	1.4×10^5	1.2×10^5
大腸菌 (O157:H7)	試験液噴霧前※	—	8.0×10^5	7.8×10^5
	試験液噴霧後15秒間放置	検体	<10	<10
	試験液噴霧後 5分間放置	検体	<10	<10
		対照	9.3×10^5	8.1×10^5
黄色ブドウ球菌	試験液噴霧前※	—	1.4×10^6	1.4×10^6
	試験液噴霧後15秒間放置	検体	<10	<10
	試験液噴霧後 5分間放置	検体	<10	<10
		対照	8.4×10^5	8.2×10^5
サルモレラ	試験液噴霧前※	—	7.7×10^5	9.7×10^5
	試験液噴霧後15秒間放置	検体	<10	<10
	試験液噴霧後 5分間放置	検体	<10	<10
		対照	4.9×10^5	9.6×10^5
白癬菌	試験液噴霧前※	—	9.6×10^5	8.4×10^5
	試験液噴霧後15秒間放置	検体	<10	<10
	試験液噴霧後 5分間放置	検体	<10	<10
		対照	7.2×10^5	9.0×10^5

<10 : 検出せず

保存温度 : 室温

対照 : 精製水

※ 調整直後の試験片の生菌数を測定し、噴霧前とした。

ノロウイルス除去試験

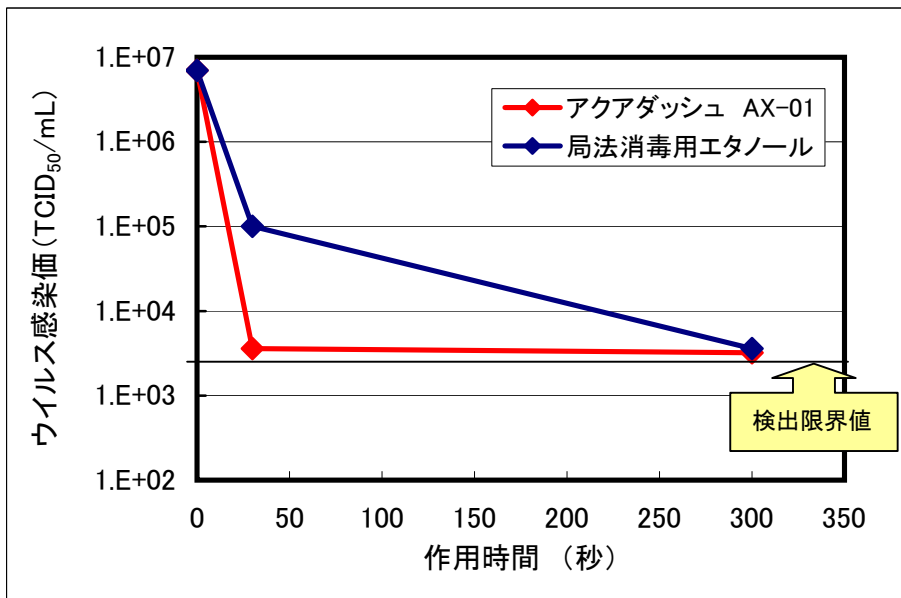
<ノロウイルス代替としてのネコカリシウイルス除去試験>

試験品の作用時間に対するウイルス感染価

材料名	作用時間 (秒)		
	0	30	300
アクアダッシュ AX-01	7.0E+06	3.6E+03	<3.2E+03
局法消毒用エタノール	7.0E+06	1.0E+05	3.6E+03

(単位: TCID₅₀/ml)

※検出限界: <3.2E+03



※ TCID₅₀: median tissue culture infectious dose .50%組織培養感染値量

作用液1ml当たりのTCID₅₀の数値

<財団法人 北里環境科学センター >

インフルエンザウイルス除去試験

< 試験ウイルス : インフルエンザウイルスA型(H1N1) >

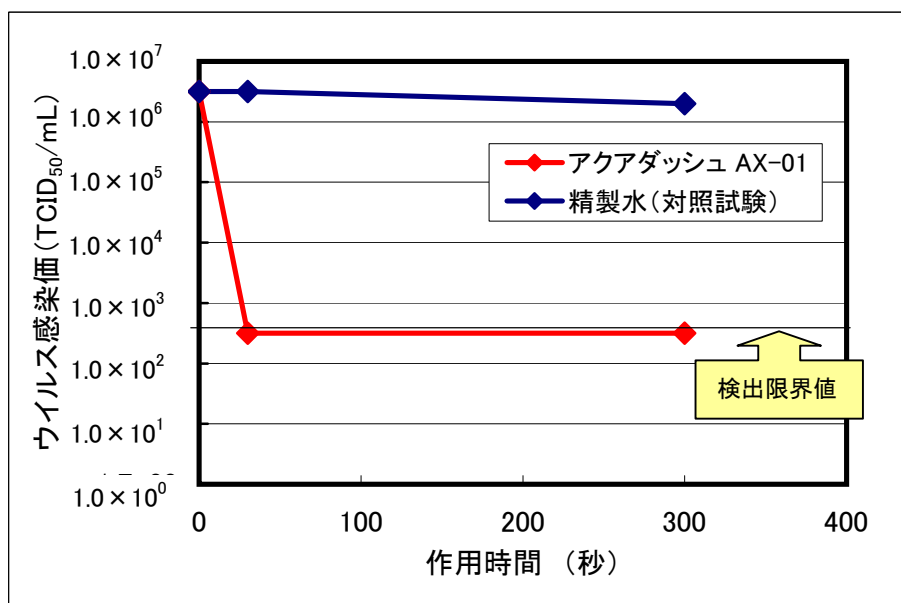
作用液のウイルス感染価測定結果

試験ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /ml [※]		
		開始時	30秒後	5分後
インフルエンザウイルス	検 体	6.5	<2.5	<2.5
	対 照	6.5	6.5	6.3

対 照 : 精製水

作用温度 : 室温

<2.5 : 検出せず



※ TCID₅₀: median tissue culture infectious dose .50%組織培養感染値量

作用液1ml当たりのTCID₅₀の数値

<財団法人 日本食品分析センター>

付記

インフルエンザウイルス除去試験結果の見方について

インフルエンザウイルス除去試験結果表の見方は次の通りです。

1、TCID₅₀

TCID₅₀ 法とは、ウイルスに感染すると細胞の形状が変化する現象(細胞変性)を利用したウイルス量の測定法で、感染価(力価)で、“50%の細胞に感染するウイルス量”ということの意味します。

2、試験結果表の見方

下記試験結果は、

「アクダッシュは、10の6.5乗 TCID₅₀/ml のIFV を30秒で10の2.5乗 TCID₅₀/ml 未満に除去する」効果があるという事を示しています。

結果、<2.5:「検出せず」と規定している為、「除去」したと判定されています。

※ IFV: インフルエンザウイルス

試験ウイルス	対 象	log TCID ₅₀ /ml [※]		
		開始時	30 秒後	5 分後
インフルエンザウイルス	検 体	6.5	<2.5	<2.5
	対 照	6.5	6.5	6.3

<2.5 : 検出せず

3. log TCID₅₀ の TCID₅₀ への換算

経過時間 (秒)	アクアダッシュ AX-01		精製水 (対照試験)	
	log TCID ₅₀	TCID ₅₀	log TCID ₅₀	TCID ₅₀
0	6.5	3,162,278	6.5	3,162,278
30	2.5	316	6.5	3,162,278
300	2.5	316	6.3	1,995,262

感染価(力価) 3,162,278 を30秒後には検出限界未満(316)に除去する効果を有する。

以上